

令和2年度第2回学校評議員会

住 所 盛岡市羽場 18-11-1
学 校 岩手県立盛岡工業高等学校
校 長 南 舘 秀 昭
電 話 019-638-3141

1 会議の名称

令和2年度第2回学校評議員会

2 会議の目的

学校運営等について地域住民代表及び地域産業代表等から幅広く意見を聞き、相互の意思疎通や協力関係を高め、地域社会に開かれた特色ある学校づくりをより一層推進する。

3 会議の日時

令和3年2月16日（火）14:00～15:00

4 会議の場所

盛岡工業高等学校 応接室

5 会議の出席者

- (1) 評議員 川 村 博 昭 本校同窓会副会長
熊 谷 司 盛岡市立飯岡中学校 校長
坂 本 誠 一 岩手県立産業技術短期大学校 副校長
東海林 敦 株式会社ミクニ盛岡事業所長
田 屋 千 穂 元本校PTA3学年委員長
- (2) 学校側 南 舘 秀 昭 校 長
水 野 扶佐史 副校長
寒河江 研 哉 副校長
小田中 達 夫 定時制副校長
河 内 啓 祐 事務長

6 会議の次第

- (1) 開 会
(2) 校長挨拶
(3) 協議
ア 令和2年度活動状況報告について（副校長）
イ 令和2年度の学校評価（生徒、保護者、教職員）について（副校長）
ウ 本校の課題に係る意見交換
(4) その他
(5) 学校評議員からの提言
(6) 校長謝辞
(7) 閉 会

7 会議の概要

(1) 活動状況報告

令和2年度の進路状況及び学校評価アンケート等について、全・定副校長より説明を行った。(15分)

(2) 質疑応答

評議員

学校評価アンケートの結果のフィードバックはどのように行っているか。

学校側

学校評価の結果は開示している。対応としては、生徒に関することは生徒指導部と連携というように、項目に応じて各分掌と連携している。また、職員会議や反省企画会議等で職員全体へのフィードバックを行い、改善につなげている。施設設備に関しては、県への要求を継続していくしかないのが現状である。

評議員

アンケートの回答について、学年ごとの傾向、特色はあるのか。

学校側

特色はある。また、学年進行においても特色はあり、年よっての傾向もある。傾向としては高校1年生が比較的意見を多く書いてくる。中学校とのギャップの中で、素直に感じたことを書いているものと思われる。2年、3年と学年が進行するにつれて、高校生活にも慣れ、授業や実習、学校行事を様々経験するなかで盛工の良さを理解していく傾向がある。

(3) 本校の課題に対する意見交換

学校側

工業系への志願者数が減り、志願倍率が下がってきている最近の傾向についてどのように感じますか。

評議員

高度成長期と比べると志願倍率は下がっている。産技短として卒業後の出口は充実しているが、入口が最大の課題である。高校2年生を対象にアンケートをとっているが、地元工業系進学先等を知っているかという質問に対しては、高校生は3割程度であり、そもそもの認知度が低い。小学校、中学校からものづくりへの感心を高める工夫が必要であり、ロボコンのスポーツ少年団のようなものを立ち上げるくらいのことをしなければならぬかもしれない。

評議員

小学生が工場見学に来た際、以前であれば工場内を歩かせて見せるだけだったが、最近はロボットが稼働しているところを実際に見せたりするなど、興味・関心を持ってもらうために何ができるか、今やりはじめているところである。また、女性活用の観点からも、盛工卒業の女性社員が加工機のプログラミングを行うなど、女性が輝いている姿がある。すそのを広げる努力を行っている。

評議員

高校に来てから選べることも大切である。生徒個々のタイミングで適切に「これだよ」とアドバイスをし、目を開かせてあげることが重要である。

評議員

中学生段階において、将来、何をしたいかなど進路についての意識は高くない。何がしたいかがわからない生徒がほとんどである。「ものづくり」に対する関心も同様であり、中学校段階で何をやりたいかを決めるのは難しく、親としても、進学なら普通高校、よくわからないなら手に職でもと思う。子供たちもスポ少などで忙しく、土日に家族でどこかへ行って様々経験をさせることも少なくなっており、子供が将来進む方向性への働きかけもできていないのが残念である。

(4) 提 言

評議員 アンケートは大事であり、すぐに対応していく必要がある。適切に対応するために声をよく聴くことが大切である。生徒の顔を見ないで授業するなど先生が対応を間違えると、荒れた学校になってしまう。先生方にはそのあたりのことをしっかりと考えたうえで、生徒に接していただきたい。

評議員 コロナ禍で制約も多いなか、部活動の結果は素晴らしいものであり、賞賛したい。入学してくる段階で進路が固まっていない生徒に対しては、専門高校としてもいろいろな選択肢があることをPRして欲しい。

評議員 空飛ぶ車が当たり前と思えるような、若い人が想像力を持った世界にこれからはなっていく。盛工生はユニークな生徒が多いと実感している。そういった想像力を潰さない教育をしていただき、自信を持って生徒を育てていただきたい。

評議員 コロナ対応は大変だったと思う。修学旅行、部活、学校行事ができなかった時期もあり、何のために高校生になったのかと感じている生徒もいると思う。一度しかない高校生活において、生徒が今しかできないことを何とかやってあげようと先生方は一生懸命にやっていたと思う。先生の対応ひとつで、学校での思い出が生徒の心にずっと残ることになる。教職員、保護者共々、お互いに誠意を持って対応することが肝要である。

8 会議のまとめ

評議員の皆様からいただいた御意見や御助言は、本校の教育活動を肯定的に捉えたうえで、物心両面からの支援を継続し、更なる発展・飛躍を期待するという前向きなものであった。

教職員と生徒及び保護者との更なる信頼関係の構築や、工業高校の今後の在り方については、引き続き努力をしていかなければならないと感じた。